



診察室における言葉の玉手箱 ～第3回～

川崎幸クリニック院長
杉山 孝博

4. 動悸がする

「先生、昨夜食事が終わって休んでいたら、急に動悸がして、脈を触れたら乱れていました。心臓の発作で倒れるのではないかと心配です」

「動悸や不整脈のなかには、重大な病気が混じっていることがありますから、心電図、ホルター心電図（24時間心電図）、心エコー、胸部エックス線写真、血液検査などを受けてください」

「先生、先日の検査の結果はいかがでしたか。はっきりした動悸はなかったのですが、時々脈がとんでいるような感じがします。」

「心電図では、心室性期外収縮（不整脈の1種）が時々見られますが、頻度も多くなく、単発ですから心配いりません。また、心エコーでも、心臓の動きに異常はなく、心房内血栓もありませんでした。また、血液検査でも、血糖、コレステロール、中性脂肪などのデータも異常ありませんでした」

「脈は規則正しいのが正常であって、不整脈は病気ではないですか」

「普通の人でもこのような不整脈はよくみられますよ。極端に言えば、24時間に1度も不整脈のない人はいないのではないかと思いますよ」

「でも、動悸がすると心臓が止まるのではないかと不安になります」

「これだけ検査したわけですから、心配しないようにしましょう。これ以上心配すると、ノーローゼになってしまいますよ。」

突然、動悸が起こりますと、誰でも死の恐怖感のような感じを持つことがあります。

しかし、全力疾走した後では誰でも脈拍が速くなって動悸を感じますね。でも、その場合は恐怖感を感じないでしょう。原因がわかっているからです。同じように、大きな病気はないのだと思って気にしないようにしましょう」

「よくわかりました。気にかけないようにします。ありがとうございました」

